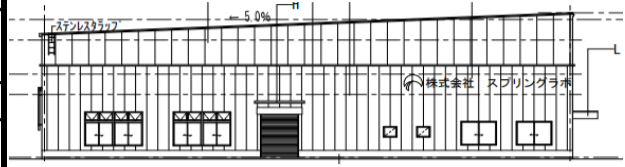


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)スプリングラボ工場	階数	地上1階
建設地	愛知県岡崎市上三ツ木町字神田 8, 9, 10, 11	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	45 人
気候区分	6地域	年間使用時間	750 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年2月22日
敷地面積	6,424 m ²	作成者	藤川 浩
建築面積	2,217 m ²	確認日	2023年2月22日
延床面積	2,217 m ²	確認者	藤川 浩



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算
 ①参照値: 58 (100%)
 ②建築物の取組み: 46 (80%)
 ③上記+②以外の: 46 (80%)
 ④上記+: 46 (80%)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境 (スコア: 2.6)

音環境	2.1
温熱環境	2.6
光・視環境	2.6
空気質環境	3.2

Q2 サービス性能 (スコア: 3.1)

機能性	2.9
耐用性	2.9
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 1.7)

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー (スコア: 4.1)

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.2)

水資源	3.4
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.3)

地球温暖化	3.8
地域環境	3.3
周辺環境	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td><td>52.9 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	52.9 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	52.9 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr><td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td><td>なし</td></tr> <tr><td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td><td>なし</td></tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 株スプリングラボ工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	2.1	0.15	-	-	-	-	2.1	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		0.4	1.8	0.40	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-	1.0	0.60	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	0.40	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音		-	1.0	0.20	-	-	-	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35	-	-	-	-	2.6	
1 室温		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-		
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-		
3.0 3.0		3.0	3.0	0.30	-	-	-	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		0.2	2.6	0.25	-	-	-	-	2.6	
1 昼光率		0.3	1.8	0.30	-	-	-	-		
2 方位別開口		3.0	1.0	0.60	-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
1 昼光制御		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.3 照度		5.0	3.0	1.00	-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.15	-	-	-	-		
3.0 3.0		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-		
4 空気環境										
4.1 発生源対策		0.2	3.2	0.25	-	-	-	-	3.2	
1 化学汚染物質		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-		
3.0 3.0		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-		
4.2 換気		0.3	3.6	0.30	-	-	-	-		
1 換気量		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
2 自然換気性能		3.0	5.0	0.33	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
4.3 運用管理		0.2	3.0	0.20	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
2 喫煙の制御		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.9	0.40	-	-	-	-	2.9	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		0.3	2.6	0.30	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	4.0	0.33	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3 内装計画		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31	-	-	-	-	2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
3.0 3.0		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-		
1 空調・換気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり		②	階高3.7m以上3.9m未満 壁長さ比率:0.1未満	0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)						0.38	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	3.6
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.65	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.46	-	-	-	4.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水機器及び省水型機器を採用している	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+軽鉄+仕上げの構成としている	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率80%	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	2.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
(株)スプリングラボ工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10
② 資源の有効活用			3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
			外構緑化:52.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)スプリングラボ工場

計画上の配慮事項	
総合	鉄骨造平屋建ての工場・事務所の建物である。 事務所部分は広く快適な空間となるよう設計を行った。 敷地内にはできる限り緑化を施し、緑化景観の形成や暑熱環境の緩和に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	室内は自然換気が取り込めるよう十分な開口を確保した。
Q2 サービス性能	天井高に余裕を持たせ、広く快適な空間となるよう計画した。 更新時などにも配慮し、階高などに余裕を持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地周辺に緩衝帯(緑地)を設け、良好な緑化景観を形成した。
LR1 エネルギー	適切に断熱材を施工し、高効率設備を採用することで、省エネルギー性に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水型機器を積極的に採用し、水資源保護に努めた。 分別しやすい仕上げ構成とし、解体時のリサイクル促進に配慮した。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率:80% 燃焼機器を使用しない計画とし、大気汚染防止に配慮した。
その他	特になし。